

令和5年度男女共同参画に関する意識調査結果

阿賀野市では、「男女がともに参画し、夢と幸せをはぐくむまちづくり」の実現を目標に、5か年（令和3年度～令和7年度）計画である「第4次阿賀野市男女共同参画プラン」を策定し、市民、団体等と協力し合いながら、様々な事業に取り組んでいます。

このたび、男女共同参画社会に関する意識を把握し、第4次阿賀野市男女共同参画プランの見直しや、今後の取り組みについての基礎資料とするため、「男女共同参画に関する意識調査」を行いましたので、調査結果の一部を紹介します。

- ・比率は全て百分率(%)で表し、%の母数は、その質問項目に該当する回答者の数でn=と表記しています。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・前回調査とは、平成30年度男女共同参画に関する市民意識調査のことです。

はじめに

男女共同参画とは？

男女共同参画とは、社会によって作り上げられた「男らしさ、女らしさ」という固定的なイメージにとらわれず、誰もが自分らしくいきいきと暮らしていくことです。ここでいう男女とは、生まれつきの生物学的な性別、性差のみを指すものではありません。

私たちが毎日の生活の中で「当然のこと」「当たり前」と思っている様々なことについて、「なぜ？」と疑問を持つことが男女共同参画社会を考えるきっかけになります。

調査の概要

調査名	対象	方法	回収数	比較した前回調査
市民意識調査	市内に居住する満18歳以上の男女3,000人	層化抽出法（比例配分法） WEB上のフォーマットによる回答	475件 （回収率15.8%）	平成30年度男女共同参画に関する市民意識調査
児童・生徒意識調査	市内の小中学校に通う小学5年生、中学2年生	WEB上のフォーマットによる回答	小学5年生314件 （回収率97.2%） 中学2年生255件 （回収率85.0%）	平成30年度男女共同参画に関する児童・生徒意識調査
職員意識調査	阿賀野市職員（消防を含む）	庁内システムのアンケート機能による回答	408件 （回収率88.3%）	平成30年度男女共同参画に関する職員意識調査

市民意識調査より

1. 男女の地域・家庭に対する考え方について

■男女の地位の平等感

「男女平等」の割合が最も高いのは『学校教育の場において』となっています。

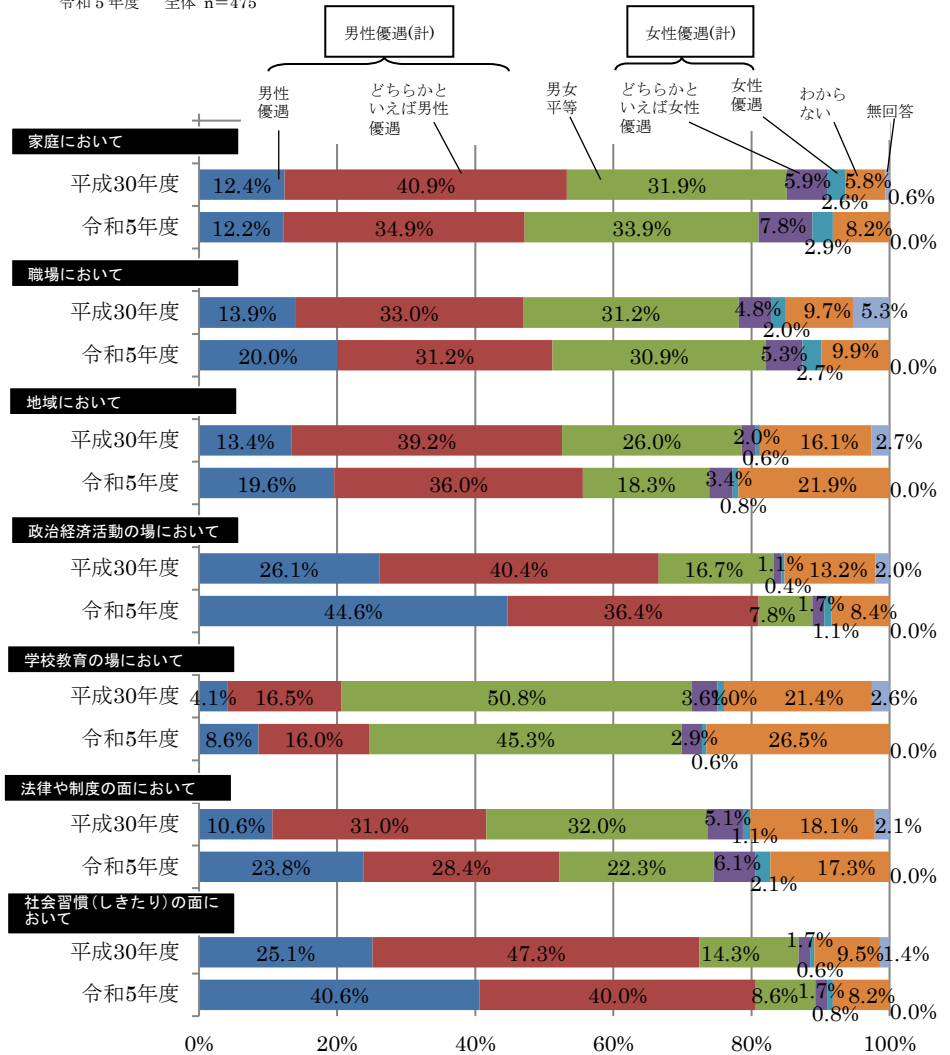
その他の分野においては、「男性優遇(計)」の割合が「男女平等」の割合を上回っており、特に『政治経済活動の場において』『社会習慣(しきたり)の面において』では、「男性優遇(計)」の割合が8割以上となっています。

※前回調査との比較

『家庭において』では、「男女平等」の割合が増加していますが、その他の分野においては、「男女平等」の割合が減少しています。

平成30年度 全体 n=1130

令和5年度 全体 n=475

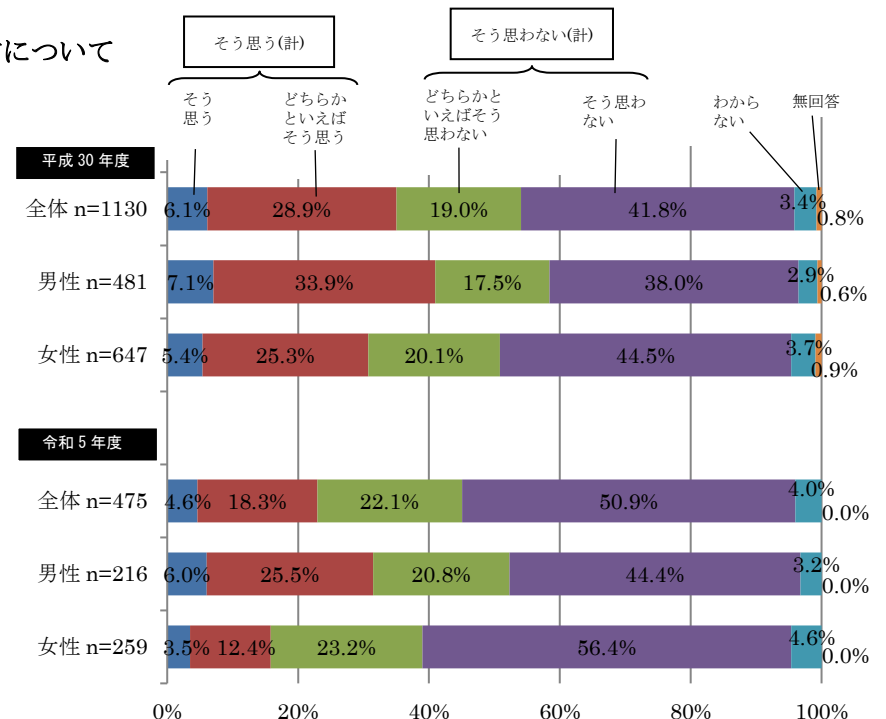


■「男は仕事、女は家庭」という考え方について

男性、女性ともに「そう思わない(計)」の割合が高くなっています。

※前回調査との比較

男性女性ともに「そう思う(計)」の割合が減少し、「そう思わない(計)」の割合が増加しています。



2. 男女の職業生活に対する考え方について

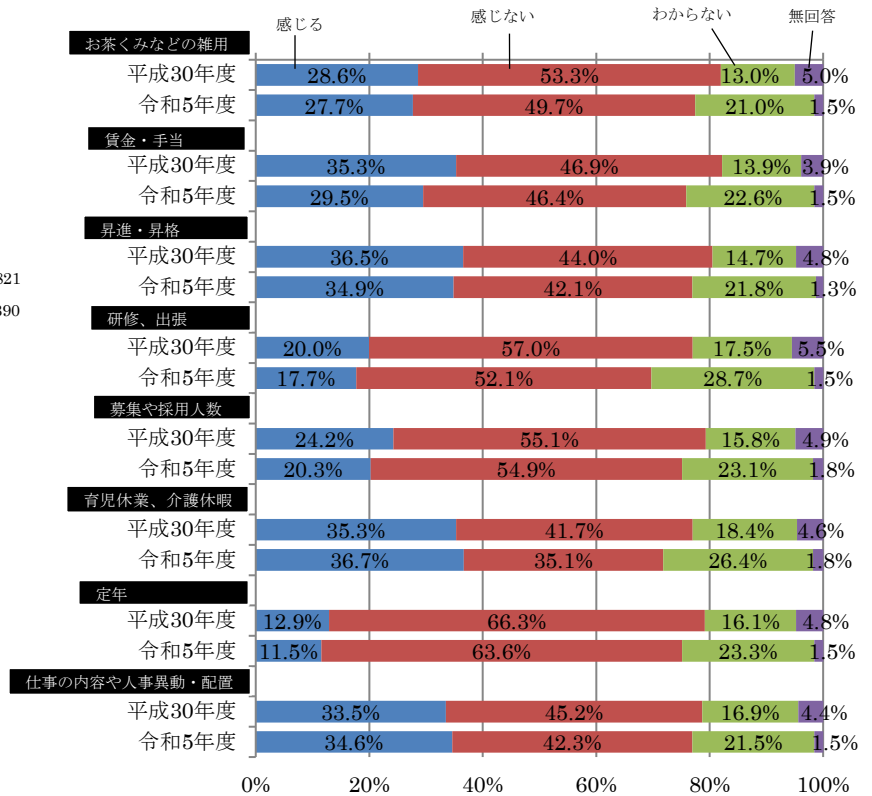
■職場で男女差別を感じること

『昇進・昇格』『育児休業・介護休業』『仕事の内容や人事異動・配置』で、「感じる」の割合が3割以上となっています。

平成30年度 全体 n=821
令和5年度 全体 n=390

※前回調査との比較

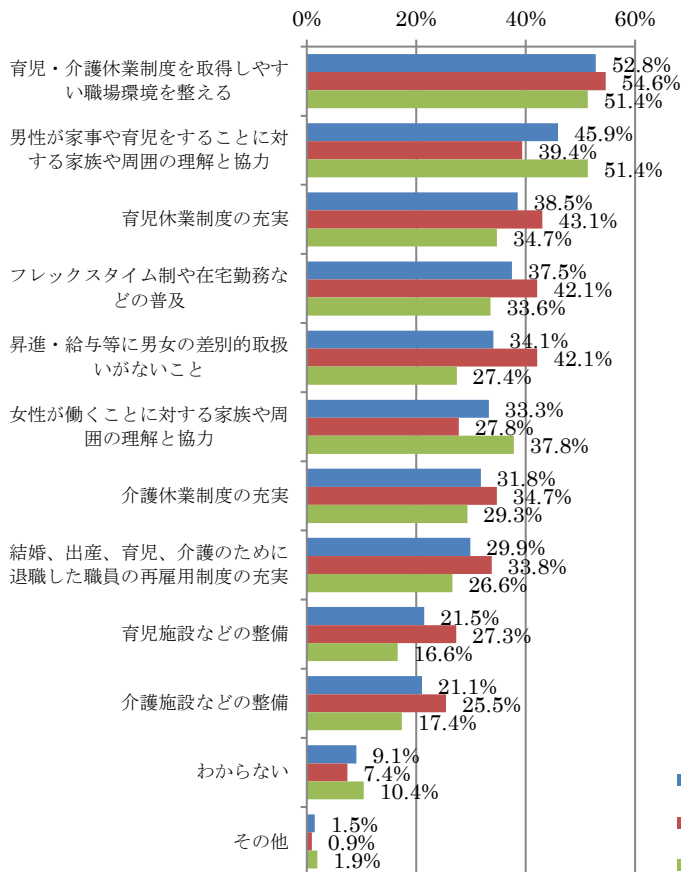
『育児休業、介護休業の取得』『仕事の内容や人事異動・配置』で「感じる」の割合が増加しています。



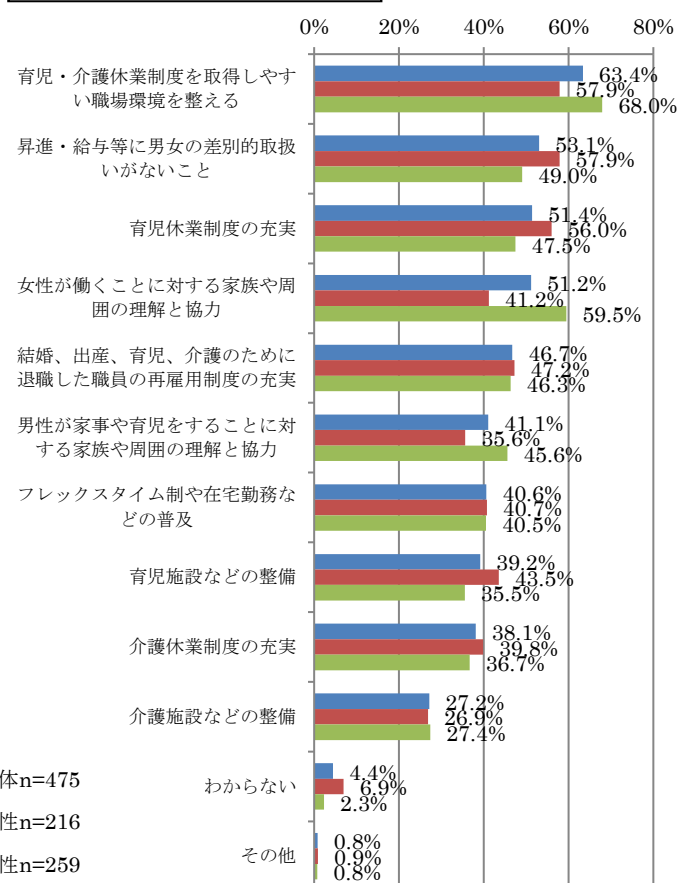
■男性にとっての、女性にとっての働きやすい環境づくりに必要なこと

男性、女性ともに過半数以上の方が『育児・介護休業制度を取得しやすい職場環境を整える』ことを必要だと思っています。

男性にとっての働きやすい環境づくり



女性にとっての働きやすい環境づくり



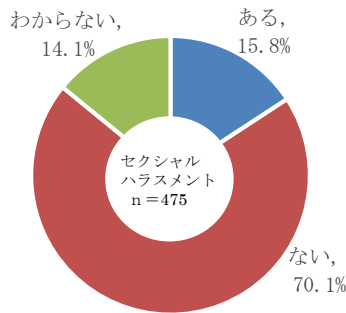
3. 男女の人権について

■セクシャルハラスメント、ドメスティック・バイオレンスの被害経験

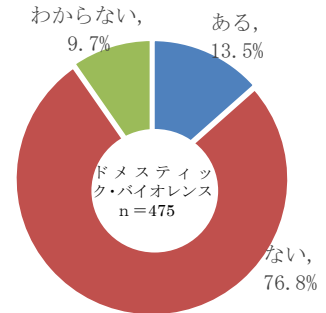
セクハラは約 1.6 割、DV は約 1.4 割の方に被害経験があります。

※前回調査との比較

被害経験があると答えた割合は、セクシャルハラスメントは 0.5 ポイント減少し、ドメスティック・バイオレンスは 0.8 ポイント増加しています。



セクシャルハラスメント(セクハラ)とは、相手を不快にさせる性的な言動で、性的攻撃とも言えます。



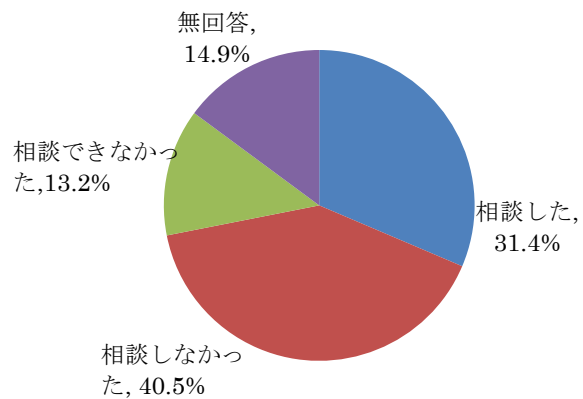
ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、配偶者やパートナーなどから振るわれる暴力をいいます。

■セクシャルハラスメント、ドメスティック・バイオレンスの相談状況

約 5 割の方が「相談しなかった」または「相談できなかった」と答えています。

※前回調査との比較

全体で「相談しなかった」が 6.7 ポイント減少し、「相談できなかった」が 3.2 ポイント増加しています。

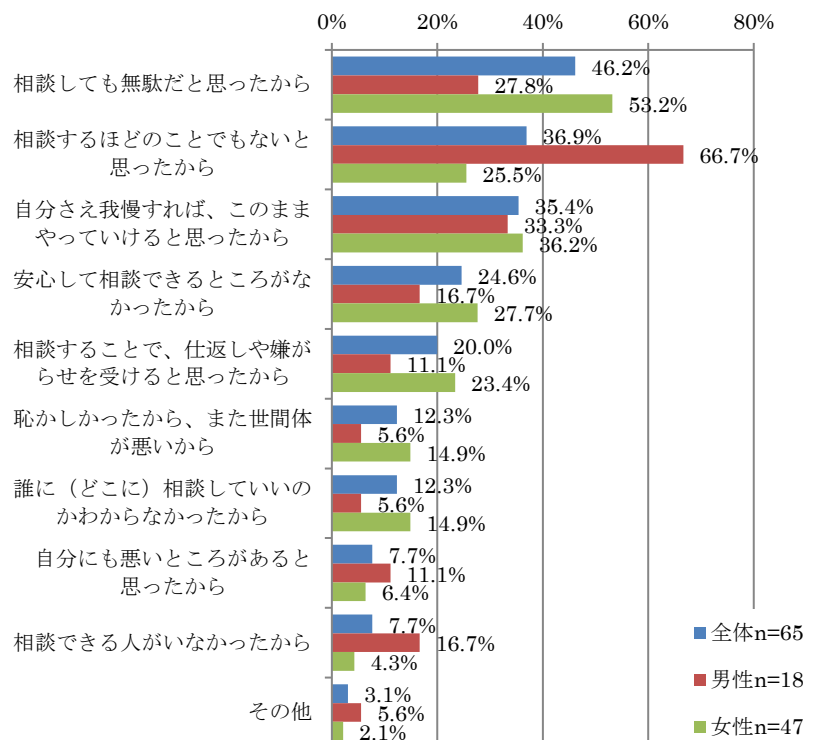


■セクシャルハラスメント、ドメスティック・バイオレンスを相談しなかった、できなかった理由

「相談しても無駄」「自分さえ我慢すれば」という諦めの割合が高くなっています。また、「安心して相談できるところ」「誰に相談すればいいか」という相談先の不安も一定数見られます。

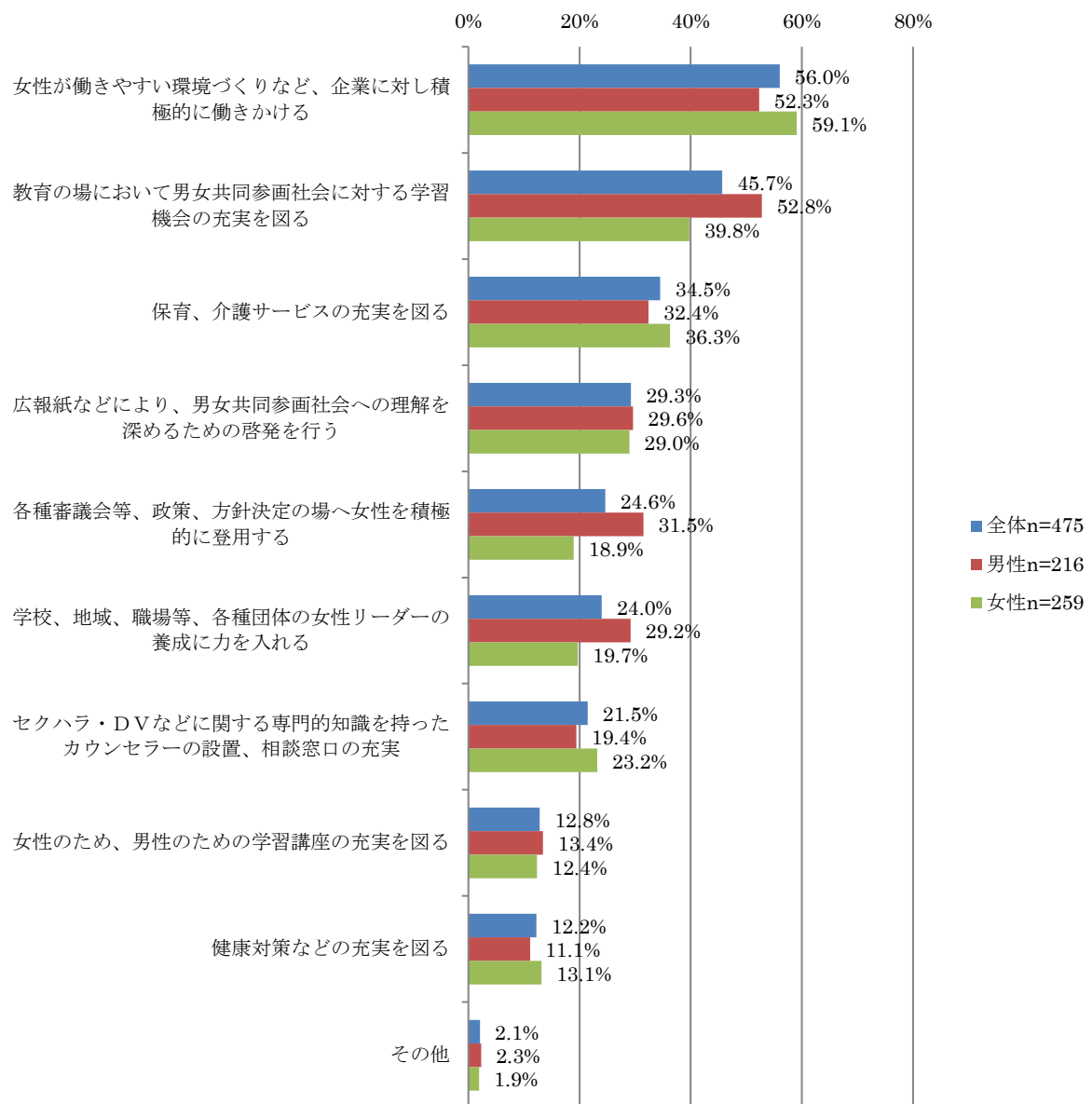
※前回調査との比較

全体で「自分にも悪いところがあると思ったから」が 10.5 ポイント減少し、「恥かしかったから、また世間体が悪いから」が 5.8 ポイント増加しています。



4. 男女共同参画の推進で市が力を入れていくべきこと

市が力を入れていくべきこととして、男性は『教育の場において男女共同参画社会に対する学習機会の充実を図る』、女性は『女性が働きやすい環境づくりなど、企業に対し積極的に働きかける』が最も高い割合となっています。



※前回調査との比較

前回調査 2 位の『保育、介護サービスの充実を図る』と、3 位の『教育の場において男女共同参画社会に対する学習機会の充実を図る』の順位が逆転しています。

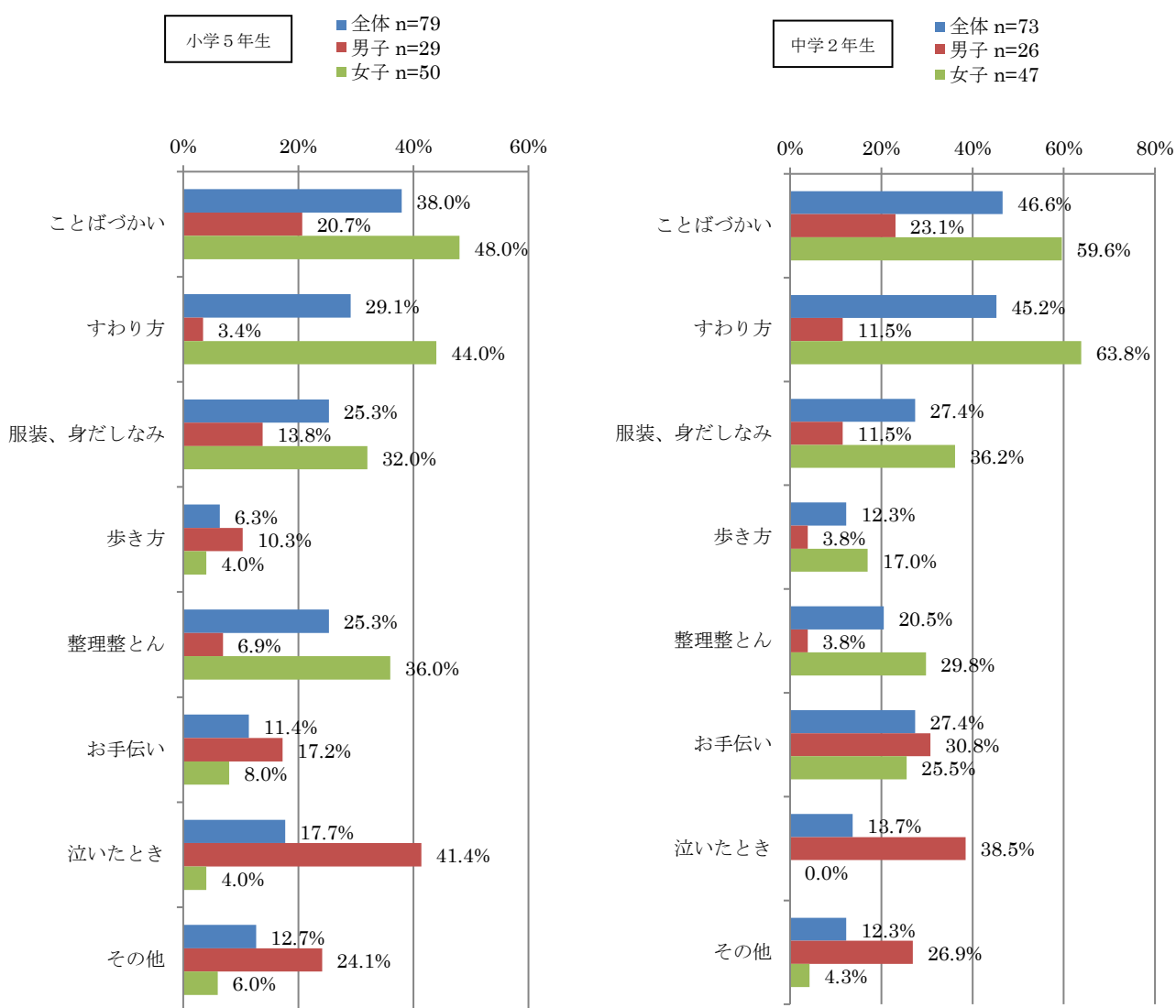
児童・生徒意識調査より

1. 性別役割意識に対する大人の影響について

■「男だから、女だから」と言われる内容

男子は、『泣いたとき』が小学生、中学生ともに多く、中学生になると『お手伝い』で「男だから～」と多く注意されています。

女子は、『ことばづかい』や『すわり方』で「女だから～」と多く注意されています。



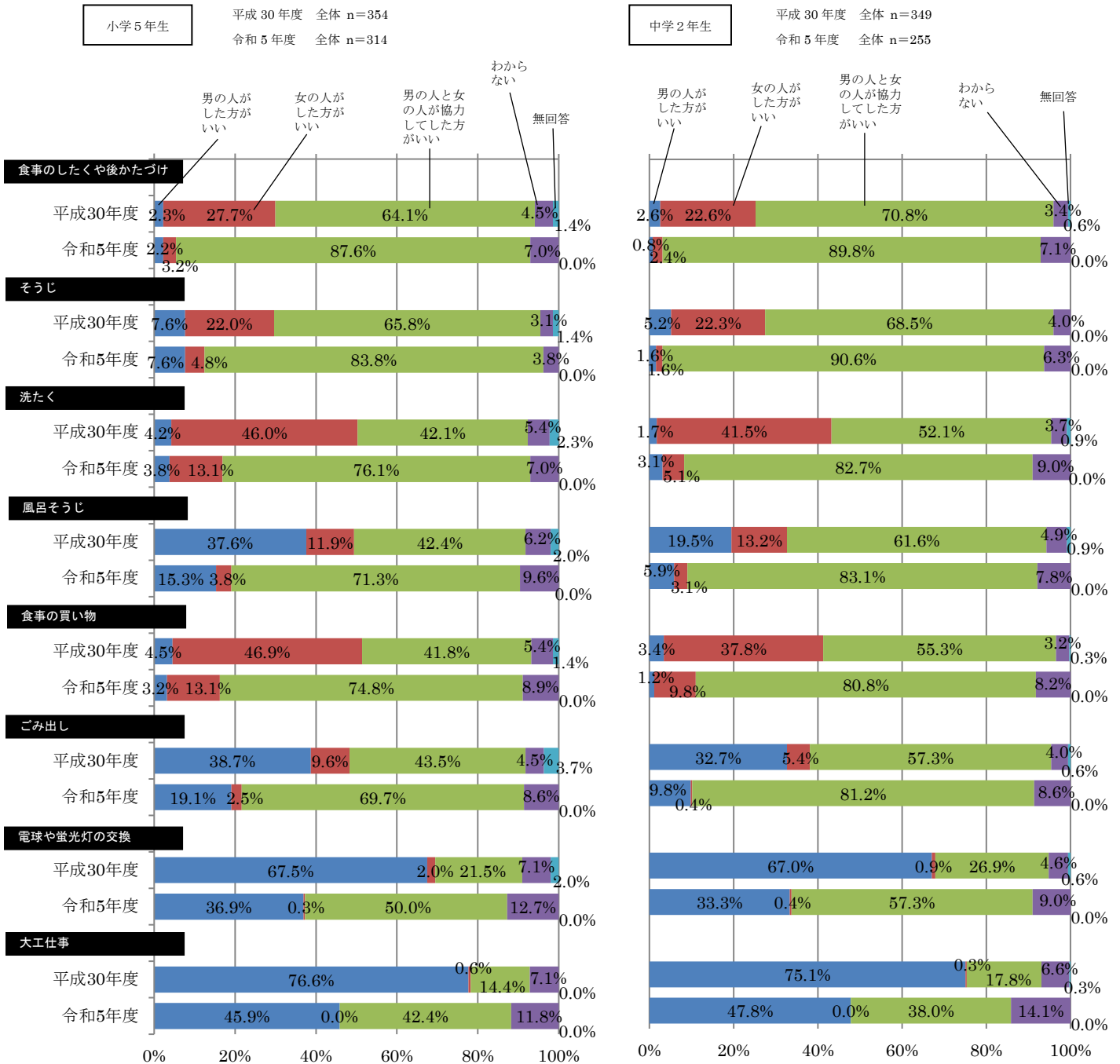
※前回調査との比較

前回、中学生男子で2位だった『泣いたとき』が、今回は1位となっています。

2. 家庭における男女の役割分担について

■家庭における男女の役割分担

『大工仕事』では、「男の人がした方がいい」の割合が高くなっていますが、それ以外の項目では小学生、中学生ともに「男の人と女の人が協力してした方がいい」が最も高くなっています。



※前回調査との比較

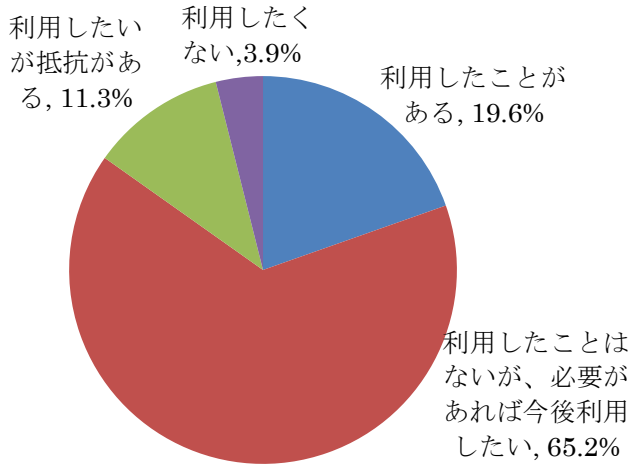
小学生、中学生ともに、全項目において「男の人と女の人が協力してした方がいい」の割合が前回より大幅に増加しています。

職員意識調査より

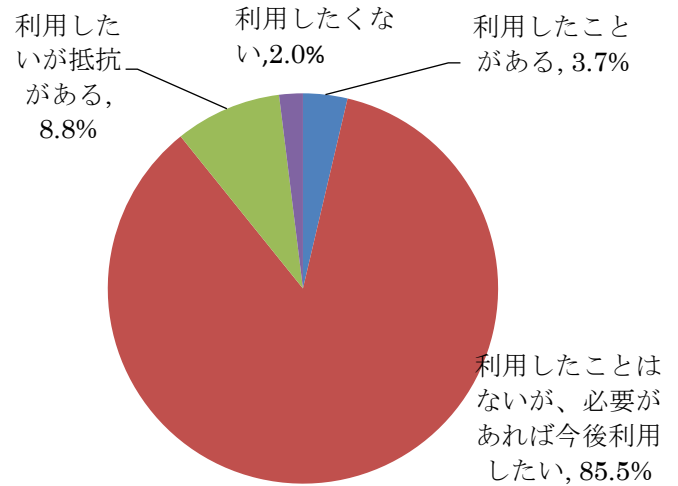
1. 男女の職業生活に対する考え方について

■育児・介護休業制度の利用状況・利用意向

①育児休業



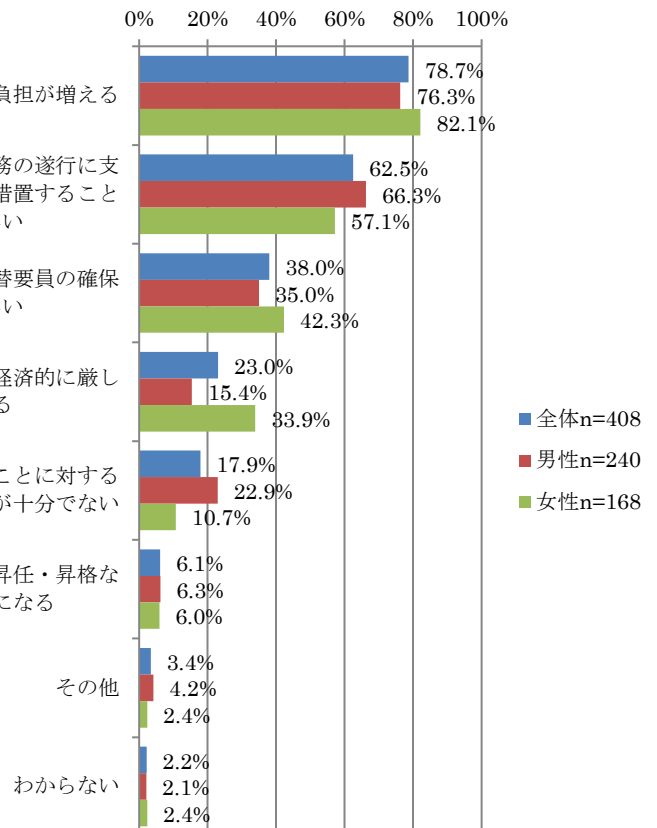
②介護休業



■育児・介護休業制度を利用する上で支障となること

約8割の職員が、他の職員の負担が増えることを懸念しています。

※前回調査との比較
全体で「他の職員の負担が増える」は、9.9ポイント減少しています。

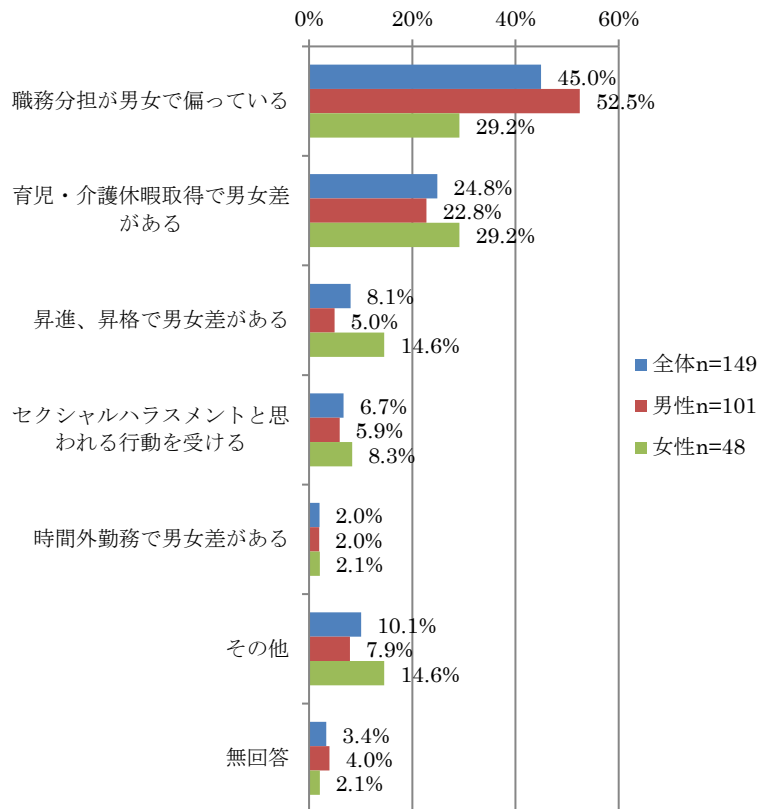


■職場の待遇で実感すること

男性、女性ともに「職務分担が男女で偏っている」と答えた割合が最も高く、特に男性が5割を超えています。

※前回調査との比較

全体で「職務分担が男女で偏っている」は10.5ポイント減少し、「育児・介護休暇取得で男女差がある」が5.3ポイント増加しています。



■職場で男女平等を推進していくために必要なこと

男性、女性ともに「適正な人事配置や職務分担の改善をはかる」と答えた割合が最も高くなっています。

※前回調査との比較

「適正な人事配置や職務分担の改善をはかる」と答えた男性が8.2ポイント増加しています。

全体で「育児休業・介護休暇制度などの社会的条件の整備を進める」は前回4位でしたが、今回は2位となっています。

